



しまだ とうまさ
島田 敏 さん(海老ヶ島)

大勢の人に意見をいただくと全く違った記事になり、市民記者の楽しさを知りました。

多くの勢力が領地を奪い合っていた戦国時代、海老ヶ島城は、結城氏の最前線の出撃拠点(出城)として湿地帯の中に築かれました。その大きさは現在の東松原、西松原地区の大半が入るほどです。「現在は、往時をしのぶような建物はありませんが、掘割が残っています。境内西側に堀が通っていて、土塁の一部は、

何度も城主が入れ替わった奪い合いの城

近年、城跡巡りが密かなブームになっていきます。今回は築城開始から今年で560年目となる明野地区の海老ヶ島城跡にスポットを当てました。城跡内に立地する新善光寺(松原)の中村正道住職を訪ね、海老ヶ島城の歴史について伺いました。

戦乱の出城「海老ヶ島城」 令和に繋がる歴史の旅

県道をつくる際に埋め立てに使われました」と中村住職。築城後は、度重なる城の争奪戦が行われました。

室町から令和へ

約150年の海老ヶ島城の歴史で、最後の城主が穴戸義長で、城下町が形成されたのもこの時代です。「ここ新善光寺も、東の守りの龍泉院と共に西の浄土寺として、穴戸義

長(おだうひなが)の入城にともなって、穴戸城下(旧友部町)からこの地に移されました」と中村住職。一昨年、西松原自治会では、子どもたちに地域の歴史に興味を持ってもらおうと、集落センターに海老ヶ島城の絵地図を掲示しました。

海老ヶ島城の歴史

室町時代

- 1461 **結城家** 結城成朝により築城開始。
- 1467 **結城家** 海老原輝明(結城成朝の子)が初代城主となる。
- 1546 **小田家** 穴戸道綱が海老ヶ島城を攻略、小田家の所領となり、小田六騎の一人平塚長信が城将として配置される。
- 1556 **結城家 小田家** 結城家との第一次山王堂の戦いで小田家撤退するも、同年に復帰し、再び平塚長信が城主になる。
- 1559 **結城家** 小田家は再度、結城晴朝の結城家を攻めるが平塚は討死し、結城家の領地になる。
- 1560 **小田家** 小田家は佐竹氏・宇都宮氏と結城家を攻撃し、平塚大輔が城主になる。

取材を終えて

海老ヶ島城を調べていくうちに、小田氏治に辿り着きました。氏治は「戦国最弱」大名と呼ばれるほど、城を何度も奪われましたが、家臣や領民から大変慕われ続けた人物だったようです。その逸話として、氏治が城を奪われると領民は一斉に姿を消し、再び氏治が城に戻ると領民は



海老ヶ島城跡付近から筑波山を望む



新善光寺周辺の地図 集落センターにある絵地図

安土桃山時代

- 1569 **佐** 上杉謙信が小田家を破り、穴戸義長が城主となり、弟、義利(海老ヶ島新左衛門)を配置する。
- 1592 **竹家** 穴戸義長が入城。城下町を整備。
- 1602 関ヶ原の戦いのあと、佐竹家が羽根秋田へ転封により廃城。



新善光寺の中村住職



新善光寺に残る「穴戸家家系図」や「新善光寺の由来と謎」など

氏治に年貢を納めたとのこと。その氏治の家臣「平塚長信」、さらに海老ヶ島城を守るため氏治によって配置された「海老ヶ島七騎」などまだまだ掘り下げたい人物や出来事があります。また、新善光寺が明治時代に小学校の校舎として活用され、大村小学校の前身となったことなどから、穴戸義長の入城と城下町整備が現在のまちづくりへと繋がっていったことを強く実感しました。最後に、城跡の多くは、民地となっている場合が多いので、探索の際は、許可なく他人の土地に入ることのないようご注意ください。